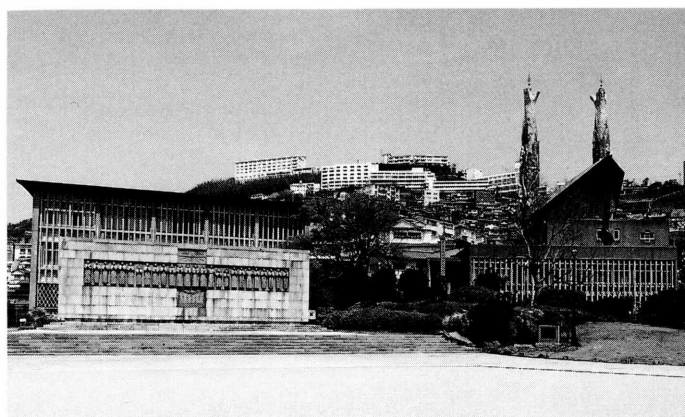


日本二十六聖人記念館

所在地 長崎県長崎市
用途 聖堂・資料館
竣工年度 1962年
所有者 宗教法人カトリック・
イエズス会
設計者 今井兼次
施工者 大成建設(株)
維持管理者 結城了吾



〔審査評〕 1597年2月5日は26聖人が長崎西坂の丘で磔刑にされた日であり、その時以来、この地は殉教者の丘と呼ばれるようになった。日本二十六聖人記念館は、600余名の殉教者たちの聖なる血に彩られた丘に、26聖人列聖百年目を記念して昭和37年（1962年）に建立された。記念館は聖フィリッポ聖堂・資料館・26聖人記念碑から成り立っており、建物の設計を今井兼次氏が担当し、殉教者のブロンズ像は舟橋保武氏、また資料館に展示する聖パブロ三木像は沢田政広氏が制作した。聖フィリッポ聖堂は鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階建てで、3階が聖堂、1・2階が司祭館となっている。資料館は殉教者の遺徳を称え、そのメッセージを伝えること、聖フランシスコ・ザビエルから明治時代までの日本に於けるキリスト教の歴史を紹介する場であり、鉄筋コンクリート造、地下2階、地上3階建てで、1階と中2階が資料館となっている。仕上概要について述べると、聖堂は屋根が銅版棒葺、外壁はコンクリート打放し、陶版モザイクタイル、自然石積みで構成されており、資料館の屋上は陶版モザイク、柱梁はコンクリート打放し、外壁は陶版モザイクとプレキャストコンクリートの格子で仕上げられている。また記念碑は正面、側面が万成石小叩き、裏面は自然石積み、床は御影石で造られている。

律動感を持つ彫刻的雙塔の聳え立つ聖堂、庇と格子で直截的に構成されている資料館、その前面に極めて象徴的に構える26聖人の記念碑は、三位一体となってこの地域に溶け込み、訪れる人々に新たな感動を与えている。また資料館の両妻側の陶版モザイクの壁面と、聖堂をはさんで立つ聖母マリア、精霊への奉獻を象徴する雙塔のガウディ的要素をとり除くと、これらの建築群は意外に簡潔な構成によって形つくられている。更に聖堂内部も控えめで、簡素な小公堂の雰囲気醸し出している。外観の直截なコンクリート打放しの壁面、聖堂や資料館の堅ルーパー、様々な完結した表象的モチーフによってつくられた窓とそれを収めるディテールは、ひとつひとつが工芸的な入念さで仕上げられている。また宗教的諸形象が、あらゆる環境空間や建築空間、並びにその面構成の中に数えきれないほど多く包含されていることも特徴となっている。この様に設計者の豊かな感性と情熱によってつくられた芸術性の高い建築群は、今や貴重な文化的価値を持つ存在となっている。

この施設の維持管理者である結城館長は、今井兼次氏が当時現場で、職人と一体となってもものづくりに情熱を注いでいたころからの知己であり、以来30有余年にわたって、この施設を建立時の理念に基づいて守り続けている。外壁の格子の補修を除いて、大規模な改修を行うことなく、竣工時の面影を残しているのは、館長、職員、信者の献身的な日常の奉仕によるものである。また空調設備は竣工時にはなく、1990年以降順次設置され、快適な環境づくりに努めている。

BELCA 賞の授賞を契機にこの貴重な文化的資産である宗教建築の保存のため、地域、宗教という領域を超越した奉仕活動が積極的に展開されることを祈念したい。